

保護者のみなさま

豊能町立東能勢中学校  
校長 濱野 裕民

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果について

深秋の候、保護者のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、4月18日(火)に実施された全国学力・学習状況調査の結果が国より届きました。以下に校内の分析内容を報告いたします。

### 1. 調査概要

- 平成29年4月18日(火)に全国すべての学校を対象に一斉に実施された。
- 中学校3年生を対象に、国語・数学の2教科についてAテスト(主として知識)とBテスト(主として活用)の2種類のテストが実施された。
- 生徒の生活習慣や学習環境等に関するアンケート調査も同時に実施された。

◆公立の中学3年生の内、4月18日にテストを受けた生徒は99万人余り、全生徒数の約99%にあたる。

※この調査結果については、学力の特定の一部分が表れているだけで、本校は、調査標本数が43と少ないので、表された数値は、数名の回答で大きく変わる可能性があることに留意しなければならない。

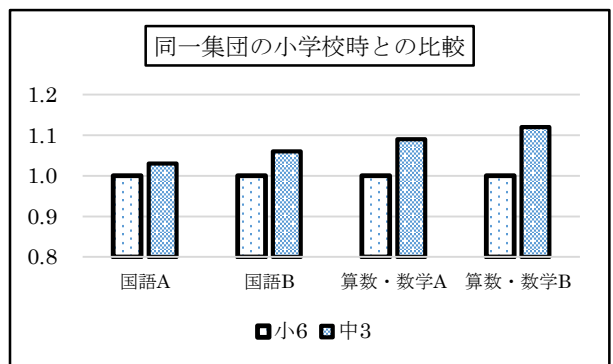
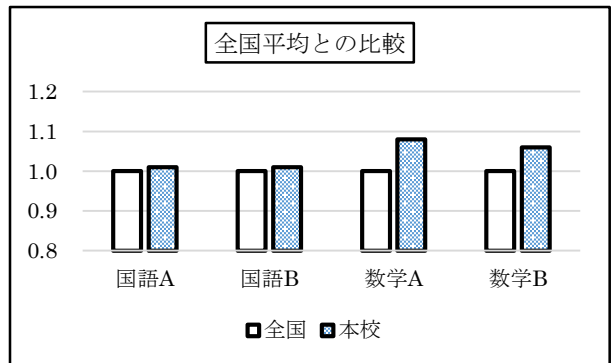
### 2. 調査結果

#### 【学力調査結果の概要】

国語はA・Bとも全国平均とほぼ同程度でした。数学はA・Bとも全国平均を上回りました。(グラフ右上)

また、本校の3年生が、3年前の小学校6年生の時に受けた全国学力・学習状況調査の平均正答率を1として、今回の結果を表すとグラフ右下のようになります。

このグラフから、この3年間で、国語A・B、数学A・Bともに力が伸びたということが分かります。大阪府全体では、小6時と中3時ほぼ同程度(本町HP掲載の「平成29年度全国学力・学習状況調査結果」参照)に対し、本校は中学校になって上がっています。



#### 【各教科の分析】

##### 《国語》

##### (1) 全体概要

A「主として知識に関する問題」、B「主として活用に関する問題」両区分ともに全国の平均正答率を上回る結果となった。また、領域別でいうと、AB両区分ともに「読むこと」に関する項目では全国を上回る結果となり、「書くこと」に関する項目では全国を下回る結果となった。無回答率は概ね全国と比較して低い結果となっており、問題に即した内容を文章にする力の向上が今後の課題である。

## (2) A区分「主として知識に関する問題」

「読むこと」に関する項目では、文章の要旨を捉える問題や、登場人物の描写から内容を読み取る問題などで、高い正答率となった。漢字の読み書きや語句の意味を問う問題なども正答率が高く、国語の基礎的な力は身につけていると考えられる。

「書くこと」に関する項目では、伝えたい内容を構成や語句を工夫してまとめる問題などで、全国と比べて低い結果となった。

## (3) B区分「主として活用に関する問題」

目的に応じて必要な情報を読み取ったり活用したりする問題などの読み取り問題では正答率が高かったが、スピーチ内容を相手にわかりやすく書き直す問題のような、指定された条件に従って文章を書く問題では、課題が見られた。

### 《数学》

#### (1) 全体概要

「A：主として知識」、「B：主として活用」とも全国の平均正答率を上回っており、本校の生徒は概ね学習内容を理解できていると言える。

「A：主として知識」では全36問中、正答率が全国と比較して10%以上、上回っている問題が11問、10%以上下回っている問題はなかった。「B：主として活用」では全15問中、正答率が全国と比較して10%以上、上回っている問題が3問、10%以上下回っている問題が1問だった。また無回答率も全51問中1問のみが全国平均を上回っただけだったことから、意欲的に問題に取り組む姿勢を身につけ、知識を活用する力を身につけてきていると言えるだろう。

#### (2) 正答率による分析

##### ①正答率が全国と比較して10%以上 上回っている問題

###### 「A：主として知識」

- 2(3)  $(2x + 5y) - (6x - 3y)$  を計算する
- 2(4) 等式  $x + 4y = 1$  を  $y$  について解く
- 7(2) 与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ
- 9 長方形の縦の長さとお面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する
- 10(2) 比例のグラフから式を求める
- 10(3) 反比例の表から比例定数を求める
- 11(1) 一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる
- 11(2) 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ
- 14(2) 6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める
- 15(1) さいころを投げるときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ
- 15(2) 赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める

###### 「B：主として活用」

- 3(3) 与えられた式から、 $a$  の変域に対応する  $b$  の変域を求める
- 4(1) 2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する
- 5(1) 1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める

##### ②正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題

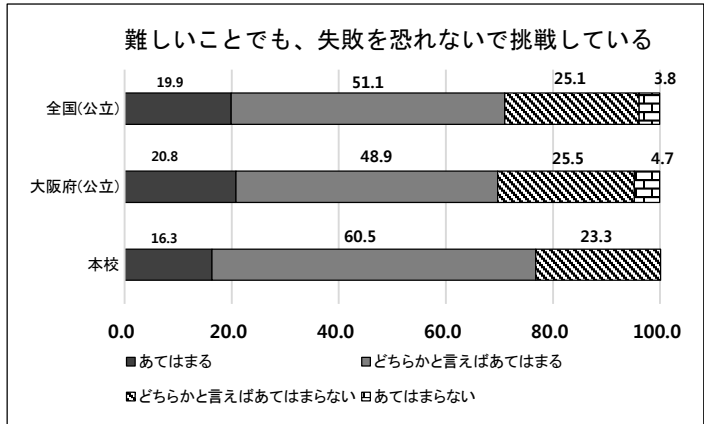
###### 「B：主として活用」

- 2(2) 六角形を  $n$  個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローを  $n$  を用いた式で表す

【生徒質問紙の分析<1>（良かった点について）】

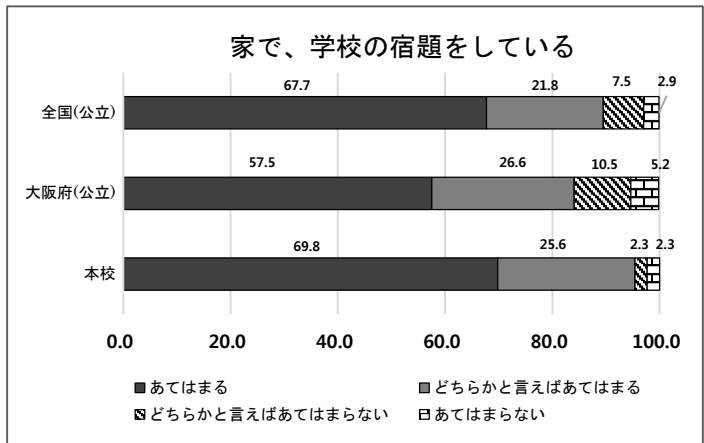
◆ 右のグラフは、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」について、本年度の本校第3学年のアンケート結果と、全国及び大阪府の第3学年のアンケート結果を示したものである。

昨年度、同じ質問に対して本校生徒の「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」の回答は、58.6%。全国や大阪府と比較すると低い結果であった。本年度は、8割弱の生徒が肯定的な回答をし、全国及び大阪府の結果より高い結果を示した。さらに、「あてはまらない」については、本校生徒は0%であった。年度による学年の傾向にもよるが、「挑戦」することへ積極的な生徒の姿勢がうかがえる結果であった。



◆ 右のグラフは「家で学校の宿題をしている」かについて質問をしたものである。宿題を「している」「どちらかと言えばしている」という肯定的な回答が、大阪府や全国の生徒に比べ、本校生徒は多い。本校生徒は95.4%の生徒が、家で宿題を「している」「どちらかと言えばしている」と回答している。

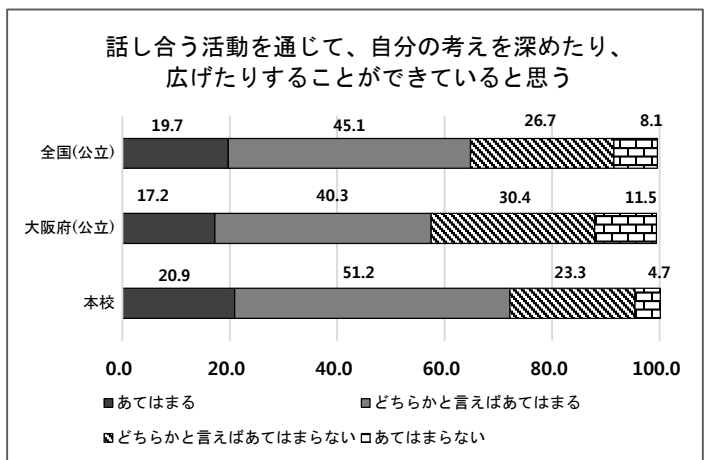
これは、各学年の入学当初より各学年の取り組みとして、継続的に定期考査前を中心とした学習計画や課題提出について取り組んでいることが成果となって現れているととらえることができる。



【生徒質問紙の分析<2>（授業に対する態度について）】

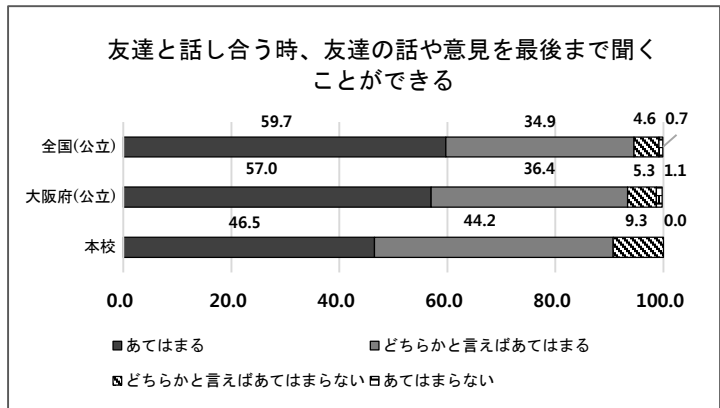
◆ 右のグラフは授業中の話し合い活動の中で「自分の考えを深めたり、広げたりできた」かについて質問したものである。「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と肯定的に回答する生徒の割合が、大阪府や全国の生徒と比較して多い。

これからの社会を生きる資質・能力を育む学習の場として「主体的、対話的な深い学び」の場づくりの工夫が求められる中、「自分の考えを深めたり、広げたり」しながら、ものの見方や考え方を育てている様子もうかがえる。また同時に、生徒それぞれが授業の学習活動に積極的、協働的な姿勢で取り組んでいる様子もうかがうことができる。

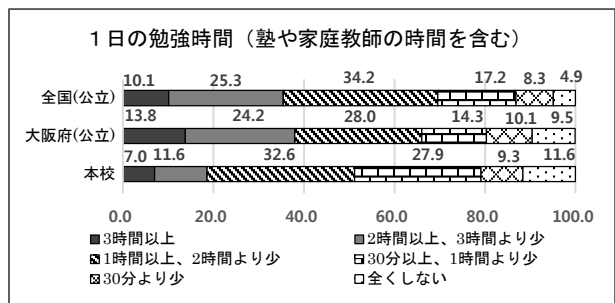


【生徒質問紙の分析<3>(課題について)】

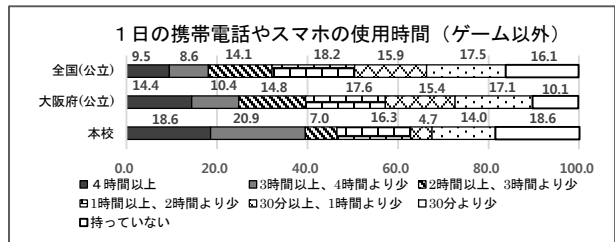
◆ 右のグラフは、友達と話し合うとき「友達の意見を最後まで聞くことができる」かについて質問をしたものである。大阪府や全国の生徒に比べ、「あてはまる」と回答した生徒の割合が12.8～10.5ポイント低い。また、「あてはまらない」という回答の割合は、大阪府や全国の生徒に比べやや多い。話し合いはただ単なる意見の言い合いではなく、意味ある結果に収束するものでありたい。自分の意見や意思を伝えることも大切であるが、相手の意見をしっかりと聞きそれを踏まえた意見に至る姿勢を育むためにも、大切にしたい課題である。



◆ 右のグラフは、「1日あたりの学校以外での学習時間」についての質問である。大阪府や全国の生徒に比べ、全体的に1日の学習時間が短い傾向にある結果である。特に大阪府や全国の生徒に比べ、「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した割合が低く、「30分以上、1時間より少ない」「全くしない」と回答した生徒の割合が多い。この結果は、昨年度11月に実施した生徒アンケートで「1時間」「30分まで」の割合が多い結果とほぼ一致している。



また、次のグラフは、「1日あたりの携帯電話やスマートフォンを使う時間(ゲーム以外)」についての質問である。「4時間以上」「3時間以上4時間より少ない」という回答の割合が多い傾向にある。前述の生徒アンケートでは、学習時間とスマートフォン等を使う時間の関係を分析し、スマートフォン等を使う時間が「3時間以上」の生徒の割合を比較した。学習時間が「1時間以上」と回答する生徒は23%であるのに対し、「30分以下」と回答する生徒では48%にのぼるなど、スマートフォン等の使用時間にかかなりの差が見られることが分かった。



「学習時間」と「スマートフォン等を使う時間」の関連についてはさらに情報が必要であり、また生徒数が少なく少数回答も割合に影響することも考慮する必要があるが、学習内容の定着の時間を考えると気になる結果である。家庭との連携を進める一方で、学力向上と関連の深いとされる読書活動の推進等により、自制心の育みをすすめたい。

3. 改善計画

- ◆ 「アクティブ・スクール事業」に取り組み、「主体的、対話的な深い学び」を視座に置いた、組織的な学力向上の取り組みの一層の推進を図り、中学校区として小中一貫連携教育の取り組みを進める。
- ◆ 日々の授業において、これまで取り組んできた焦点化・視覚化・共有化と振り返り活動を意識した魅力ある授業(ユニバーサルデザインによる授業)づくりを土台とし、すべての子どもが「わかる・できる」授業を工夫する。
- ◆ 小学校と連携をとりながら作成した「東能勢中学校校区授業スタンダード」を活用し、低学年から学びたいと思う心の育成に努めるとともに、人を傷つける言葉、いじめは許すことのできない人権問題であるという認識のもと、小中一丸となって取り組む。
- ◆ すべての生徒にとって授業が安心できる学びの場であるため、生徒会を中心に作成した「東能勢授業スタンダード」を活用し、生徒の自覚ある授業規律の取組みを継続する。また家庭との連携、連絡帳の取組みや「毎日宿題⇒終礼で配布し翌日終礼で回収」・週末課題などの取組みを徹底して行う。